



全労生・前副議長

種岡 成一

政治とともに大きな変化のあった期間であった。いわゆる「失われた10年」から脱却し、次へのステップを踏み出すために各産業、企業等の労使で様々な課題へのチャレンジが続けられてきた。

就業形
態、雇用形
態の多様化
への対応、

の再編、それらを背景とした人事・処遇・賃金制度など多くの課題に取り組みがなされた10年であった。これからも、取り巻く状況の変化を予見しながら、労使間で様々な課題に取り組みなければならぬが、その基本として、生産性運動の三原則「雇用の維持・拡大」「労使の協力と協議」「成果の公正配分」を大切にすることが必要であり、それは、それぞれの労使の社会的責任でもあ

る。そして、各企業・労働組合等で実際に展開していく上で最も大切なことは「労使関係」であると思う。労使がそれぞれの立場を尊重しながら、労使自治のもと、しっかりとコミ

「公平と効率を重んじる真の生産性運動の推進」、「共生」可能な雇用社会の実現」、「社会的な視点を強化した運動の展開」、「未組織を含むすべての職場に労使協議の充実」の四つに留意した運動

を主体的に実践することを宣言した。

「全労生結成50周年宣言」のもと、 労組生産性運動の一層の発展を

を主体的に実践することを宣言した。

この方針を大切に

し、「働くことの尊厳」を重んじ、働きがい、生きがいを持って、活力ある持続可能な経済社会を目指し、労組生産性会議の活動がより一層発展することを願

う。

「団塊の世代」が60歳を迎える中での高齢者雇用、男女共同参画推進への取り組みや、一層求められるワークライフバランスの実現、グローバル化とイノベーションが進む中での企業等の組織形態など

の社会的責任でもあ

る。

全労生は、09年の結

成50周年にあたって、

う。

労働では、2003年7月に関東地方労組生産性会議の事務局長に就かせていただいたことから、昨年10月の全労生副議長退任まで約10年間、みなさまにお世話になった。この10年間は日本の社会、経済、

全労生は、09年の結成50周年にあたって、

う。